

図書館蔵書に対する評価は、その量よりも質にあることは言うまでもないが、その質的条件の中にどのような稀観本（きこうぼん）

本館

稀

観

本

所蔵

世間に流布されていない珍しい書物）が収蔵されているかがある。については専門の立場から本館所蔵の稀観本を紹介することとした。

の中から

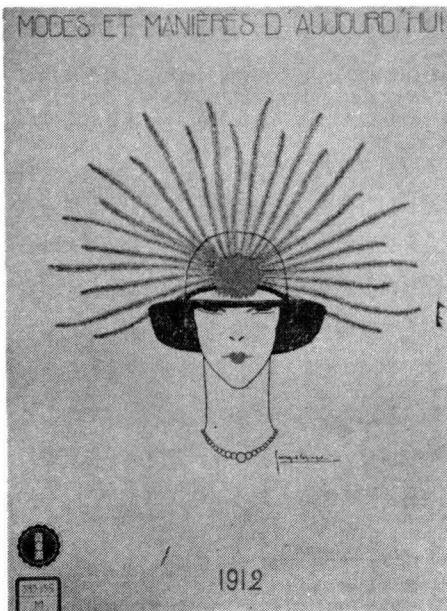
# 西洋服飾稀観書 (31) “Modes et Manières d’Aujourd’hui”

—20世紀初期のユニークなファッションブック(5)—

図書館長・教授（西洋服装史担当） 石山 彰

この表題のシリーズを終えるに当たって、私は最後にもっともふさわしい誌名をあげなければならない。Mode et Manières d’Aujourd’hui, Paris, Librairie J. Meynial, 1912~1924 [383.135 M 1~7] であり、『今日のファッションと流儀』の意である。これは雑誌というより単行本に近く、第1次大戦中と直後の数年間の休刊期をはさんでわずか7巻、各巻300部しか刊行されずじまいだった。それだけに今日ではほとんど入手しがたい稀観書の一つとなっているのである。本館は、ごく最近においてそれを入手する機会を得たのは僥倖（きょうこう）であった。全7巻の構成は次のとおりであり、一作家ごとの各巻12枚からなるグアッシュまたは水彩のポシオールか木版画のプレートと、他の作家・詩人による序文・本文または詩などからなっている。

第1巻 ジョルジュ・ルパブ画、ピエール・コラ



① 『モード・エ・マニエール・ド・ジュールデュイ』創刊号の表紙 ジョルジュ・ルパブ原画 一九一二年

ール序、マケ印刷、1912年刊。

第2巻 シャルル・マルタン画、ノジエール序、1913年刊。

第3巻 ジョルジュ・バルビエ画、アンリ・ド・レニエ文、1914年刊。

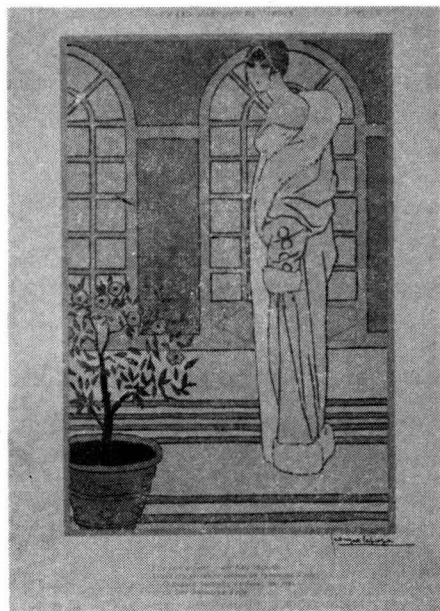
第4巻 ジョルジュ・ルパブ画、アンリ・ジャク詩（1914~1919）、1921年刊。

第5巻 アンドレ・マルティ画、トリスタン・ベルナル考想（1919）、1921年刊（横位置）。

第6巻 ロベール・ボンフィス画、ジェラルド・ドゥヴィユ文（1920）、1922年刊。

第7巻 ドゥ・シメオン木版画、ポール・ヴァレリー文（1922）、1923年刊。

これら作品のいくつかについては後述するとしても、アール・デコ期に与えたこうしたイラストの影響には絶大なものがあった。たとえば、ヴィクター



② 「庭園の歩行」画面の線描とりわけ色彩は強くフォービズムの影響をうけている ルパブ原画 第一巻

・アーウェイスはその著『アール・デコ』の中で、こう述べている。「アール・デコ様式の大部分はファッション産業の分野で活動したイラストレーターのおかげで発展することができた」<sup>1)</sup>と。また、ジュリアン・ロビンソンは『スタイルの黄金時代』の序文でこう言っている。「アール・デコの発展は、1908年から1932年に至る25年間に出版された多数の質の高いハンドプリントの本や雑誌、図集、定期行物などによる“黄金年”間の世界を通じて促進された」<sup>2)</sup>と。

各巻の内容を、全て紹介するスペースはないので、第1巻と第2巻だけについて紹介しておこう。どの巻も、各巻ごとに異なった千代紙風の紙を裏ばりにしたカルトン形式で、中はジャポン紙に刷った24枚（時には30枚）の本文と各12枚のプレートとからなっている。第1巻を例にとれば、中扉、限定版表記、1～10まではビエール・コラルルの序文、そしてルパプの1～12までのプレートと奥付けが続く。プレートのそれぞれの主題は①衣装、②暮合い、③ちょうちょ、④ぶらんこ、⑤クッション、⑥果樹園、⑦祝宴、⑧白てんの毛皮、⑨庭の歩行、⑩開かれたカーテン、⑪ペルシア服、⑫変装、である。

また同じ作者の第4巻では、まずアンリ＝ジャックの12の詩が登場する。題は出発、病院、休暇を許された者、別れ、最愛の不在者、おさらい、郷愁、雨

月、警報、11時、フォックス・トロット、勝利、となっている。またプレートの主題は次のとおりである。

①1914年の秋、②病院、③休暇を許された者、④別れ、⑤最愛の不在者、⑥おさらい、⑦郷愁、⑧雨月、⑨警報、⑩11時、⑪フォックス・トロット、⑫勝利、最後に奥付けとなっている。しかも、これらのプレートはそれぞれ各2枚ずつ1914年、1915年、1916年、1917年、1918年、1919年に当てられており、第1次世界大戦中の休刊年を形式上穴埋めしているかたちになっている。

第2巻はシャルル・マルタンの直筆のサイン入りで、300部中の№29となっている。ノジュールの序文に続いてマルタンのグアッシュのプレートが12枚、次の主題で続く。①マダムとおおむ、②雪、③やぶからぼうに、④ミュール（かかとの高い婦人用スリッパ）、⑤湯あみ、⑥狩からの帰宅、⑦婦人と子供、⑧ほたる、⑨人道の橋、⑩雷雨、⑪さくらんぼ、⑫音楽である。いずれも秀作である。

注 1) Arwas, Victor; Art Déco, London, 1980 [702.06 A]

2) Robinson, Julian; The Golden Age of Style, N. Y., 1976 [383.1 R]



③ 「夫人と子供」海岸の丘を散策する二人をリズムミカルなタッチで描く G・マルタン原画 第二巻



④ 「雨月」強く立体派の影響がうかがえる 空は黄 ドレスは青灰 左隅に凱旋門 ルパブ原画 一九一七年